

第5学年 国語科学習指導案

令和5年10月26日(木)

- 1 単元名・教材名 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう
「固有種が教えてくれること」「統計資料の読み方」「グラフや表を用いて書こう」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童について

※省略

【国語に関する意識調査の結果】

① 国語の学習は好きですか。			
好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
② それはどうしてですか。			
③ 国語の学習で好きなことは何ですか。(複数回答可)			
④ 自分の考えを文(作文、新聞、手紙、物語)で書くときに困ることはありますか。			
どちらかといえばある。		どちらかといえばない	
⑤ 4の質問で「どちらかといえばある」と回答した人で、どんなことで困りますか。			
⑥ わからない言葉が出てきたら国語辞典で調べていますか。			
国語辞典で調べている	その他の方法で調べる	何もしないことが多い	
⑦ 6の質問で「そのほかの方法で調べる」と回答した人で、どんな方法で調べますか。			
⑧ 書くための材料を整理して文(作文、新聞、手紙、物語など)を書いていますか。			
整理してから書くことが多い。		整理してから書くことは少ない。	
⑨ 組み立てや順序を考えて(作文、新聞、手紙、物語)を書いていますか。			
考えて書いていることが多い。		考えないで書いていることが多い。	
⑩ 学習したことを使って、書き表し方を工夫していますか。			
学習したことを使って、工夫していることが多い。		学習したことを使えず、工夫していないことが多い。	
⑪ 書いた文(作文、新聞、手紙、物語、報告書など)を読み返して、よりよくなるように直していますか。			
読み返して、直していることが多い。		読み返さずに、直さないことが多い。	
⑫ 書いたもの(作文、新聞、手紙、物語、報告書など)に対する感想や意見を伝え合い、そのよさを見つけられていますか。			
書いたもののよさを見つけていることが多い。		書いたもののよさを見つけられないことが多い。	

(2) 教材について

本単元は、「読むこと」の説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」と、「書くこと」の教材「グラフや表を用いて書こう」で構成される複合単元である。指導の重点は、図表やグラフの扱い方にあり、特に気をつけたいグラフなどの読み取りについては、情報「統計資料の読み方」で取り上げる。

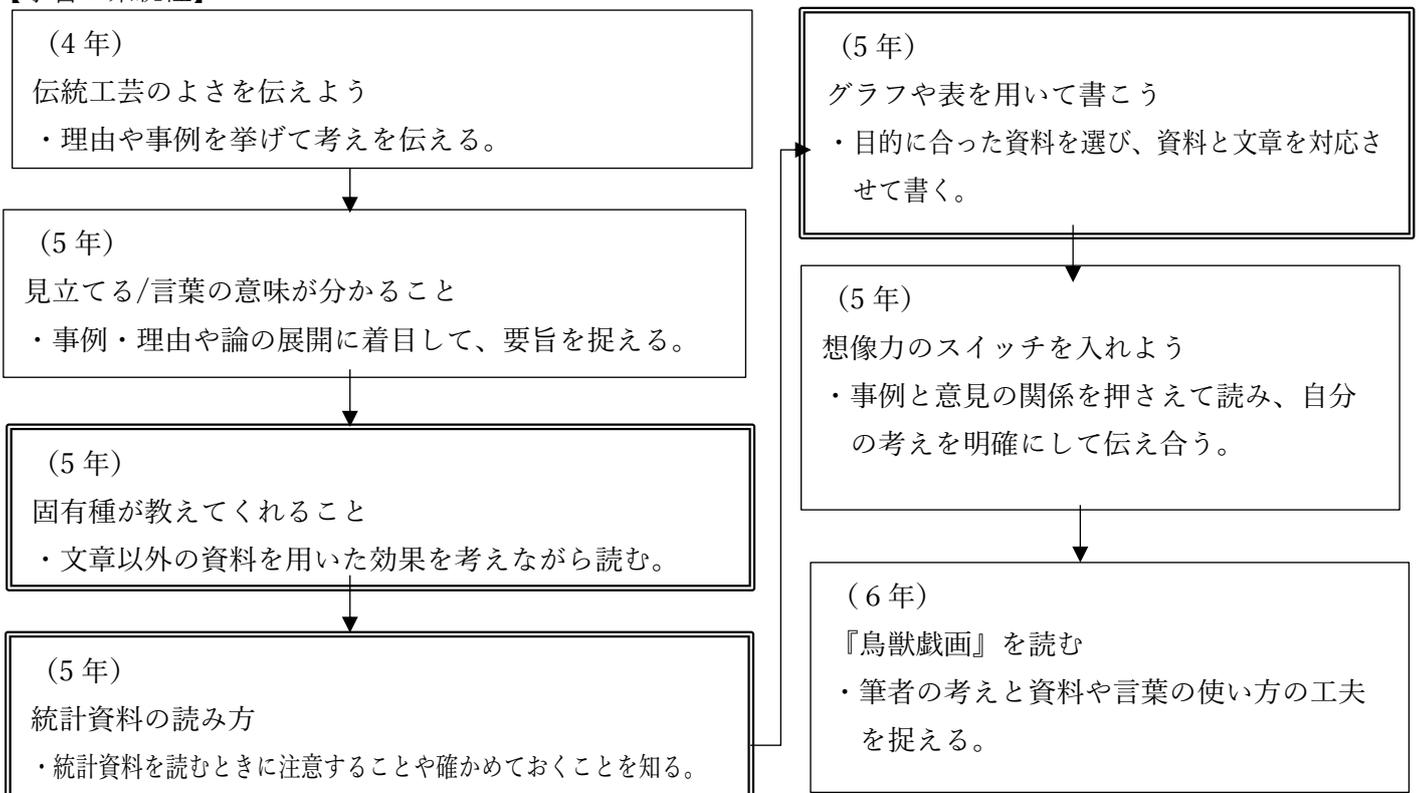
「固有種が教えてくれること」は、「初め」「中」「終わりの三部構成で書かれた双括型の説明文である。説明の工夫としては、地図、表、写真、グラフといった多様な資料を提示しながら筆者の主張を展開して

いる。また、これらの資料がどの段落で何のために使われているのか関係づけながら読み進めることで、資料の効果について学ぶことができる教材である。

「グラフや表を用いて書こう」は、「固有種が教えてくれること」で学んだことを生かし、グラフや表を用いて自分の考えを裏付けながら、意見を述べる文章を書く学習である。

まず、自分が生きている社会に目を向け、暮らしやすい方向に向かっているか、そうでないかを考えさせる。次に、その考えを裏づけたり証明したりするような資料を探し、それが意味することについて解釈する。そして、何をどの順序で書くか構成を決め、考えと資料とに整合性をもたせたうえで、文章を書いていく。書いた文章は友達と読み合い、意見や感想を共有する。全く違う資料から同じ考えになったり、同じ資料なのに捉え方が異なったりすることもあり、こうした活動から、友達の考え方を知り、社会に対する見方を広げることもできる教材である。

【学習の系統性】



(3) 指導について

本単元について、小学校学習指導要領解説には、以下のように位置付けられている。

第5学年及び第6学年の内容

[知識及び技能]

- (2) イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

[思考力、判断力、表現力等]

B 書くこと

- (1) エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

C 読むこと

- (1) ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

本単元は、図版と文章との対応を読み取ったり、それらの資料の効果を考えたりすることを通して、自分の表現にも生かすことが指導のねらいである。自分の考えが伝わるように書き表すには、資料を用いることが効果的であることを実感させるために、「今、生きている社会が、暮らしやすい方向に向かっているかどうか」について意見文を書くことを単元のゴールとする。

単元の導入では、扉のページを活用したり、「ざんねんないきもの事典（高橋書店出版）」の筆者について紹介したりして、教材に関心をもたせる。

第1次の学習では、2つの単元が関連していること、読むことで身に付けた能力を生かして書く学習をするという見通しをもたせ、学習計画を児童とともに立てる。単元を通して資料に着目しながら読み進められるようにするため、敢えて資料のない意見文を提示することで、筆者の説明の工夫を探そうと意欲を高め、書くことへの見通しや興味をもたせていきたい。

第2次の学習では、筆者の説明のしかたの工夫を捉えるために読む学習を進める。まず、「初め」「中」「終わり」の文章構成を確かめるために、既習を振り返り、筆者の考えの中心を押さえる。筆者の考えが「初め」と「終わり」にあることから双括型で構成されていることをつかむ。次に、7つの資料を2つのグループに分ける活動を通して、「中」が2つに分かれることを押さえていく。また、筆者の主張を支える資料はどれかを考えることで、資料には、文章理解を助けるものと、考えに説得力をもたせるものがあることに気付かせる。文章と資料を結び付けて読み進めることで、資料の効果を理解させたい。そこからさらに、統計資料の読み方につなげていく。資料から分かったこと、資料から考えたことを一つ一つ丁寧に読み取らせていくことで、資料を使った文章への関心を高めていく。

第3次の学習では、これからの社会について自分の考えをもち、資料を探して適切なグラフや表を選んで意見文を書く学習を行う。児童にとって、「今の社会は暮らしやすい方向に向かっているか、そうではないか」という今まで深く考えたことがないであろうテーマについて前向きに考えさせるために、社会科の「わたしたちの暮らしと食料生産」の学習を想起させたり、環境や福祉の視点で日常生活を振り返らせたりしながら、自分の考えをもたせる。教科書の意見文の作例は構成把握のために活用するが、なかなか書き始めることができない児童がいる実態から、新たな資料やモデル文を用意して、書く意欲を高めていく。また、構成を検討する際に「考え」「理由」「資料から分かること」「資料から考えられること」を色分けして文章構成を視覚的に捉えられるように組み立てメモを作成し、メモを基にして計画的に書くこと

ができるようにする。さらに、見直しカードを活用することによって、自分で推敲できる能力を身に付け、書くことに自信をつけ、今後の書く学習にもつなげたい。

本単元の学習を通して、自分の書いたものを進んで伝えたり、友達の文章のよさを見つけたりし、国語科の学習に意欲的に取り組む児童を育てたい。

3 研究主題との関わり

<p>研究主題</p> <p>「多様な学びを通して、自己の生活に生かせる資質と能力」の育成 ～書くことで考えを整理し、伝え合うことで学びを深める教育実践を通して～</p> <p>本校が目指す児童像</p> <p>「自分の考えを書き、相互に考えを伝え合い、学びを確かなものにできる児童」 高学年段階で育てたい児童像</p> <p>「目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、文章全体の構成や展開を考え、書き表し方を工夫して表現できる児童」</p>
--

仮説1 ゴール（身につけること）を明確にした単元計画を構成し、ねらいに沿った言語活動を実践すれば、言語能力を高められるであろう。

【仮説1にせまる手立て】

手立て① 教師と一緒に、学習計画を作成することで、単元全体の見通しをもった学習活動ができるようにする。

- ・「読むこと」のゴール・・・資料を用いた効果を考えながら、筆者の主張を読み取る。
- ・「書くこと」のゴール・・・図や表、グラフを用いて、自分の考えに説得力をもたせる意見文を書く。

というように学習のゴールを児童とともに事前に明確にしておく。

<教師用学習計画>

<児童用学習計画>

グラフや表を用いて書く				固有種が教えてくれること				時
11	10	9	8	7	6	5	4	1
お互いの意見文の読み、友達の文章のよさについて話し合う。下書きを推敲し、文章を完成させる。				これからの社会について自分の考えをもち、それに基づいて資料を採る。				学習活動
意見文の文章構成を考える。				資料と文章のつながりを読み取る。				1 文章を読み、学習課題を立てる。
図や表やグラフを用いて、考えが伝わるように意見文の下書きをまとめる。				「固有種が教えてくれること」の要旨をまとめる。				2 文章の構成を考え、おおまかな内容を確かめる。
								3 「固有種が教えてくれること」の要旨をまとめる。
								4 資料と文章のつながりを読み取る。
								5-6 統計資料を用いて書く意見文の書き方を知る。
								7 これからの社会について自分の考えをもち、それに基づいて資料を採る。
								8 意見文の文章構成を考える。
								9 図や表やグラフを用いて、考えが伝わるように意見文の下書きをまとめる。
								10 下書きを推敲し、文章を完成させる。
								11 お互いの意見文の読み、友達の文章のよさについて話し合う。

「単元のゴール」
資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして意見文を書くこと
固有種が教えてくれること

グラフや表を用いて書く				固有種が教えてくれること				時
11	10	9	8	7	6	5	4	1
								学習活動
								1 文章を読み、学習課題を立てる。
								2 文章の構成を考え、おおまかな内容を確かめる。
								3 「固有種が教えてくれること」の要旨をまとめる。
								4 資料と文章のつながりを読み取る。
								5-6 統計資料を用いて書く意見文の書き方を知る。
								7 これからの社会について自分の考えをもち、それに基づいて資料を採る。
								8 意見文の文章構成を考える。
								9 図や表やグラフを用いて、考えが伝わるように意見文の下書きをまとめる。
								10 下書きを推敲し、文章を完成させる。
								11 お互いの意見文の読み、友達の文章のよさについて話し合う。

「単元のゴール」
固有種が教えてくれること

手立て② 各時間における言語活動を充実させることで、学習のねらいに迫る。

<言語活動の具体>

時	主な言語活動
第1時	・資料がある文章とない文章を読み比べて、感じたことを伝え合う活動。
第2時	・「固有種が教えてくれること」を読み、文章構成や論の進め方について考え、話し合ったりまとめたりする活動。
第3時	・「固有種が教えてくれること」を読み、文章と資料を結び付け、図表の効果について考えたことを伝え合う活動。
第4時	・「固有種が教えてくれること」を読み、論の進め方を捉え、要旨をまとめる活動。
第5時～ 第6時	・「統計資料の読み方」を読み、資料から分かったことや考えたことを話し合ったり文章にまとめたりする活動。
第7時	・これからの社会について考え、考えたことを伝え合う活動。
第8時（本時）	・資料から分かる事実とそれをもとに考えたことを構成メモに書く活動。
第9時	・資料を用いて、考えが伝わるように書き表し方を工夫し、下書きをまとめる活動。

第10時	・下書きを推敲し、清書する活動。
第11時	・友達の見論文を読み、感じたことやよかったことを伝え合う活動。

手立て③ 見直す視点を明確にした「見直しカード」を活用することで、お互いの文章を視点に沿って読み返す活動ができるようにする。

手立て④ 「話し方名人」や「蒲生南小の伝え合いの約束」を活用することで、スムーズに話し合いを進めるとともに、話す内容が深められるような言語活動の下支えにする。

蒲生南小の伝え合いの約束 (高学年)

①【伝える】自分の考えを伝える
(ペア・トリオ・グループ・全体に向けて)

★気を付けること
・自分の聞いたものを隠せ、隠さずながら自分の考えを分かりやすく説明する。
・「話し方名人」を使い、説明する。
・グループの全員が伝える。
・途中でなくてもいい。(できたところまで)
・途中でなくてもいい。(ここが分かります。)

②【聞く】相手の意見を聞いて、自分の考えと比べる
・考えと友達の考えの共通点や相違点を探す。
・「なぜそう思ったのか」や「はいけないのか」を聞いて、意見を比べていく。

③【話し合う】話し合いを通して感じたことをもとに、自分の意見を深めるなどの考えを再考する。
・考えたことなどを書く。
・おともは話し合ひを終わりに書く。
・共通点や相違点から、自分が新たに気付いたことなどを書く。



仮説2 児童の実態 (つまずき) を把握し、個々に応じた具体的な手立てを明確にして授業実践すれば、基礎基本的な学習内容を定着できるであろう。

【仮説2にせまる手立て】

手立て① 全文シートの活用

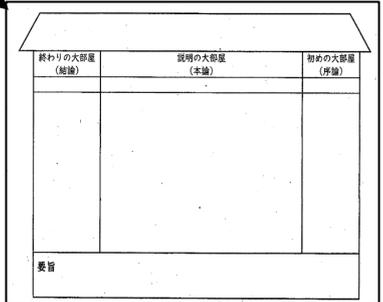
- ・文章全体を一枚のプリントに作成し、学習内容を書き込むことによる学習の一元化、また全体像を把握しやすくするための視覚化を図る。

手立て② 大部屋読解法による文章構成の理解

- ・本文を大きな家と捉え、序論・本論・結論の構成や筆者の考えをまとめさせる。

手立て③ 構成メモの色分けまとめシートの活用

- ・構成メモを書く付箋を内容によって色を変えると同時に、貼り付けていくワークシートを一枚で作成し、文章構成を視覚的に捉えられるようにする。



手立て④ 書き方を具体的に示したモデル文の作成・活用

- ・教師がモデル文を実際に作成し、児童が書き方を参考にできる資料にする。

初め ①自分の考え・理由
②自分の考え
③日本の社会は、くらしがよくなるだけでなく、地球温暖化がすすんでいくことが心配です。

中 ④自分の考えを説明する
⑤自分の考えを説明する
⑥自分の考えを説明する
⑦自分の考えを説明する
⑧自分の考えを説明する

終わり ⑨自分の考えをまとめ
⑩自分の考えをまとめ

理由 ⑪気温が上がり続けているから
⑫気温が上がり続けているから
⑬東京都心の七月の平均最高気温は、約三十三度、一九八二年は約二十六度と約七度上がっている。

説明 ⑭東京都心の七月の平均最高気温は、約三十三度、一九八二年は約二十六度と約七度上がっている。

考え ⑮このまま気温が上がり続けると、自然にも人も大変なことになる。おそろしい。

日本の社会は、くらしにいい方向に向かっている

がもう みなさん

わたしは、日本の社会は、くらしにいい方向に向かっていると思います。なぜなら、地球温暖化で気温が上がり続けているからです。社会科の授業で、温暖化のえいさうで、魚の取獲量が減っているのを習いました。学校では、夏から熱中症に悩まないように、外で遊ばないのが増えてきました。

上のグラフは、東京都心の七月の平均最高気温の比較を示したものです。赤い線は、五十年前から十年間の現在の平均気温を表し、赤い線は十年前から今年までの現在の平均気温を表しています。これを見ると、二〇一九年以降は、気温が上がり続けていることが分かります。折れ線のいちばん高い二〇一九年といちばん低い一九八二年の平均気温を比べてみましょう。二〇一九年は約三十三度、一九八二年は約二十六度で、約七度上がっています。気温が上がり続けているということは、地球温暖化が進んでいるということだと思います。このまま気温が上がっていきけば、命の危険が懸かる世の中になっていくでしょう。

このように、グラフをもとにして、五十年前で平均最高気温が約二十六度であることを述べました。このまま気温が上がり続ければ、自然にも人も大変なことになるでしょう。日本の社会はくらしにいい方向に向かっていると思います。

(参考)「読売新聞」金曜六年八月三日発行

4 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表しかたを理解し使うことができる。 〈知識及び技能〉 (2) イ
- (2) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉 B (1) エ
- (3) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉 C (1) ウ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元で取り上げる言語活動

- (1) 説明的な文章を読み、論の進め方や図表の効果について、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 (関連：〈思考力、判断力、表現力等〉 B (2) ア)
- (2) 自分の考えを裏付ける本などの資料やグラフを用いて、説得力のある意見文を書く活動。 (関連：〈思考力、判断力、表現力等〉 C (2) ウ)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表しかたを理解している。 (2) イ	①「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 B (1) エ ②「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 C (1) ウ	①粘り強く、文章と図表などを結び付けて読み、読み取った筆者の工夫を生かして、学習の見通しをもって、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。

7 指導と評価の計画 (全11時間)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	○資料を活用した文章を読んだり、書いたりする活動の見通しをもち、学習計画を立てる。	○単元の概要把握 ○学習の見通し	○単元名、教材名から、学習の見通しをもたせる。 ○教師の作成した「資料がない意見文」を読んだ後、「固有種が教えてくれること」を通読し、資料があると分かりやすいことに気付かせ、学習計画を立てる。 ○「読むこと」の学習で学んだことを生かして意見文を書くというゴールを確認する。 ○並行読書に取り組ませる。 【主体的に学習に取り組む態度①】 <評価方法> <u>発言・観察・プリント</u> ・学習課題を捉えて学習計画を立てようとしている。
2	○文章の構成を確認し、筆者の考えの中心を押さえる。	○文章構成の確認 ○筆者の考えの捉え方 ○まとめりごと(初め・中・終わり)の内容	○既習事項を生かし、「終わり」から筆者の考えを捉えさせる。 ○文章構成を理解するため、7つの資料をグループ分けする活動を通して、「中」を2つに分ける。 ○大部屋読解法のプリントを使って、見出しをつける。 【知識・技能①】 <評価方法> <u>プリント</u> ・全体の内容を捉えることができる。

3	○筆者の考えを捉えるために、要旨をまとめる。	○要旨の意味理解 ○要旨のまとめ方	○教科書 p. 46 で要旨を確実に理解させる。 ○全文プリントを使って、第 11 段落から必要な言葉を抜き出し、要旨を原稿用紙にまとめさせる。 【思考・判断・表現③】 ＜評価方法＞ <u>プリント</u> ・筆者が何を伝えたいのか考えながら、要旨をまとめている。
4	○資料と文章のつながりを読み取る。	○資料の読み取り方 ○資料の効果的な使い方	○筆者の主張を支えるのに、筆者が一番大切にしている資料はどれかを考えさせる。 ○資料6と資料7の関連は分かりにくいので、筆者の主張とどう関係しているのか全体で読み取っていく。 ○資料が「文章理解を助けるもの」と「主張を支えるもの」という役割があることを捉えられるようにする。 【知識・技能①】 ＜評価方法＞ <u>プリント</u> ・文章と資料を結び付けて内容を捉えることができる。
5 6	○統計資料を用いて書く意見文の書き方を知る。	○資料の読み方 ○意見文の書き方	○教科書の統計資料4つと用意した4つの資料を読み、分かったこと、資料から考えたことをプリントに書き出させる。 ○資料を用いた意見文の書き方を知る。 【知識・技能①】 ＜評価方法＞ <u>プリント</u> ・統計資料を読むときの注意点を理解している。
7	○これからの社会について自分の考えをもち、それを裏付ける資料を選ぶ。	○資料の読み取り ○自分の考えを裏付ける資料の選び方	○社会科の既習事項や身の回りのことから「わたしたちの社会は、くらしやすい方向へ向かっているか、そうではないと思うか」自分の考えをプリントに書く。 ○自分の考えに合っている資料を選び、班で考えを伝え合う。 【知識・技能①】 ＜評価方法＞ <u>プリント</u> ・自分の考えに合う資料を選ぶことができる。
⑧ 本時	○意見文の文章構成を考える。	○文章の構成	○モデル文がどんな構成になっているか確認する。 ○第6時で行った資料の読み取りから、自分の考えに合っているものを選び、付箋に書き出させる。 ○意見文の構成を考える。 【思考・判断・表現②】 ＜評価方法＞ <u>プリント</u> ・自分の意見文の構成を考えることができる。
9	○図表やグラフを用いて、考えが伝わるように、意見文の下書きをまとめる。	○下書きの書き方 ○相手意識 ○目的意識	○モデル文を参考にしながら、意見文の下書きをまとめる。 ○「読み手が納得するように」という目的を意識させる。 【思考・判断・表現②】 ＜評価方法＞ <u>プリント</u> ・書き方のポイントを意識して、下書きをまとめている。
10	○下書きを推敲し、文章を完成させる。	○推敲の仕方 ○相手意識 ○目的意識	○推敲の観点を共有する。

			<p>【思考・判断・表現②】 <評価方法>プリント ・「見直しカード」を活用しながら下書きを推敲し、文章を見直している。</p>
11	○これまでに学習してきた内容を意識して読み合い、文章のよいところを見つける。	○交流の視点 ○交流の方法 ○振り返りの視点	<p>○「くらしやすいか」「くらしにくい」どちらの立場か、資料は考えを裏付けるものになっているかを意識して読むようにさせる。</p> <p>○グループ内で読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○説得力のある意見文の書き方という視点で書かせる。</p> <p>【思考・判断・表現②】 <評価方法>プリント ・友達と書いた文章を読み合い、感想を伝え合っている。</p>

8 本時の学習活動（本時8 / 11時）

(1) 目標

○図や表、グラフなどを使って、説得力のある意見文の構成を考えることができる。

（思考力・判断力・表現力等）B（1）イ

(2) 評価規準

○図や表、グラフなどを使って、説得力のある意見文を構成している。

【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	○指導上の留意点・評価 ★仮説に迫る手立て	時間
1 帯活動「新出漢字の学習・辞書を引く活動」を行う。	○新出漢字・語句の理解 ○辞書の引き方	○言語能力を高めるため、毎授業時導入前に、年間を通して継続的に取り組ませる。 ○漢字スキルに載っている意味が分かりにくい言葉を提示し、辞書を引かせる。 ○調べた言葉のページに付箋を貼らせる。	5
2 前時の学習の振り返りをする。	○前時の学習内容 ・自分の考え ・選んだ資料	仮説2 手立て① （教室掲示） ★これまでの学習内容を教室に掲示をして、学習のつながりを意識させる。	2
3 本時の課題を把握する。		○児童から出た言葉を生かして課題を設定する。	3
説得力のある意見文を書くには、何に気をつけて構成するとよいか。			
4 モデル文を参考にして構成を理解する。	○モデル文の構成 ○自分の考えを裏付ける図・表などの活用	○どんな構成になっているか、資料がどう提示されているかをモデル文を使って共通理解させる。	5
5 構成メモを書く。	○構成メモの書き方	仮説2 手立て④ ★教師が「意見文」を作成することで、全員が意見文を書くことができるようにする。 ○以前に書いたプリントを参考にしながら、「自分の考え」「理由」「資料から分かること」「それをもとに考えられること」を色別の付箋に書く。	15

<p>・書いた構成メモを、写真に撮り、ロイロノート（学習支援アプリ）に提出する。</p> <p>6 書いた構成メモをペアで共有し、その後自分のメモを加筆修正する。</p> <p>7 本時のまとめをする。</p>	<p>○ロイロノートによる文章構成の共有</p> <p>○共有の視点 ○共有の方法 ○共有を基にした再考</p>	<p>仮説2 手立て③</p> <p>★文章構成が視覚的に捉えやすいように、付箋で色分けする。</p> <p>○ロイロノートの提出状況を確認しながら、支援が必要な児童を把握して机間指導にあたる。</p> <p><評価規準> 【思考・判断・表現】 <評価方法> 付箋・プリント</p> <p>・図や表、グラフなどを使って、説得力のある意見文を構成している。</p> <p><「努力を要する」状況（C）への手立て> ・提示したモデル文を見ながら、真似をして同じ色の付箋を貼るよう助言する。</p> <p>○書いた構成メモをペアで読み合うことで、相手に伝わる形になっているか確認する。</p> <p>○考えと理由、理由と資料が合っているかを確認する。</p> <p>○書き足したり、順番を入れ替えたりして、構成メモを完成させる。</p> <p>○児童の言葉を使ってまとめる。</p>	<p>1 0</p> <p>2</p>
<p>㊦ 説得力のある意見文を書くためには、資料とのつながりに気をつけて構成するとよい。</p>		<p>○今日の授業でできたことや考えたこと、生かしていきたいことを書かせる。</p>	<p>3</p>
<p>8 本時の振り返りをする。 ・プリントに書く。</p>	<p>○振り返りの視点</p>	<p><期待される児童の振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えの理由と資料が合うと説得力のある意見文が書ける。 ・次に文章を書くときも、構成メモを思い出して、組み立ててから書こうと思う。 	<p>十月二十六日（木）</p> <p>グラフや表を用いて書こう</p>

9 板書計画

㊦

㊦

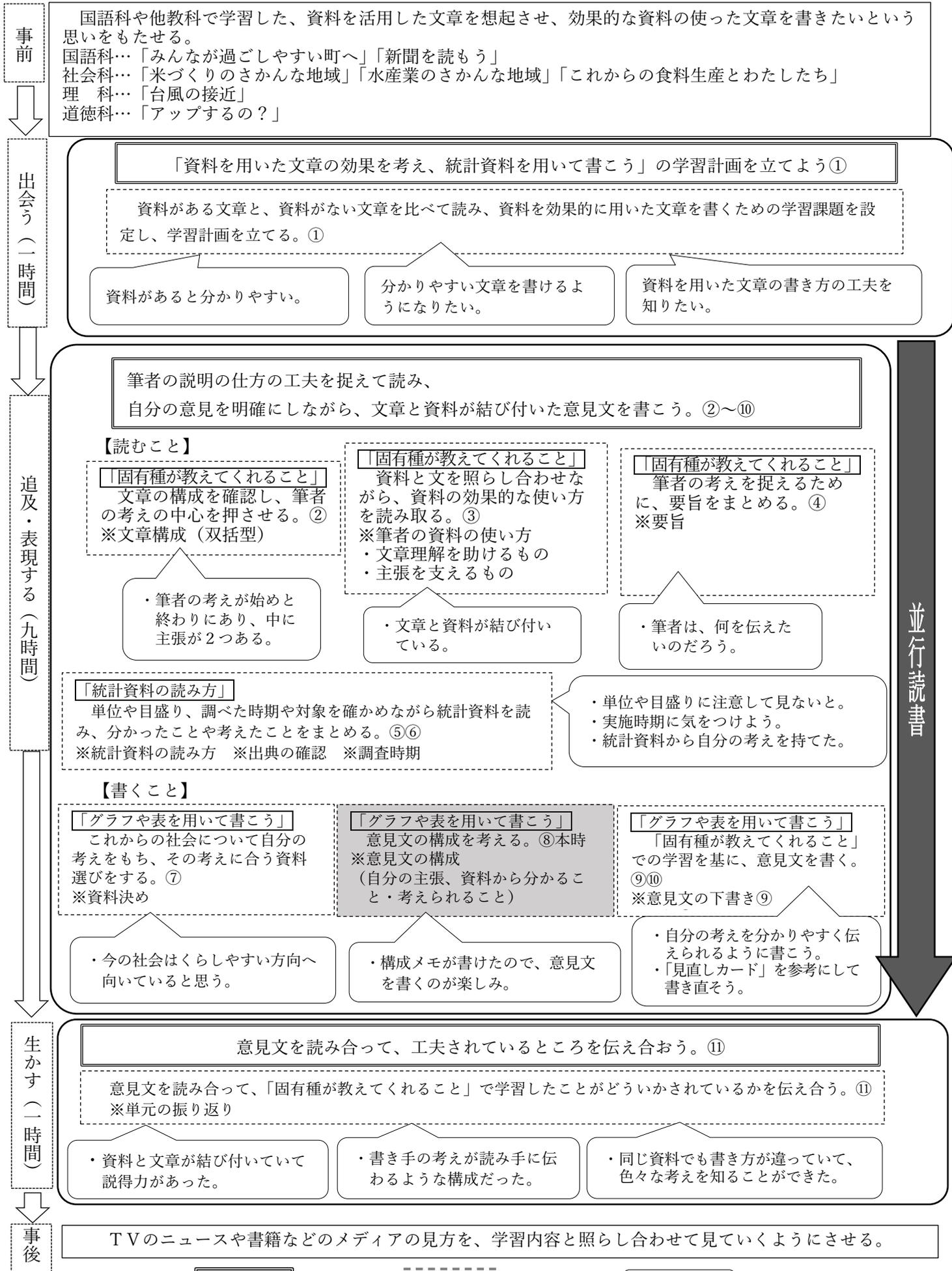
説得力のある意見文を書くには、資料とのつながりに気をつけて構成するとよい。

モデル文

㊦

説得力のある意見文を書くには、何に気をつけて構成するとよいか。

10 単元構想（全11時間）※複合単元



学習活動



主な活動



児童の思い

